

生物多様性条約 ポスト2010年目標

■「2010年目標」とは??

- ◆2002年の第6回締約国会議で採択された、「世界、地域、国レベルにおいて、現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減退させる」との条約全体の目標。
- ◆COP10で、2010年以降の新たな目標(ポスト2010年目標)を採択予定。
- ◆我が国は議長国として今年中に日本提案を条約事務局に提出。

■現在の2010年目標の問題点

- × 抽象的・明確さに欠ける
- × 客観的・数値的評価手法の欠如
- × 危機意識・対策の必要性・緊急性への理解が困難
- × 生物多様性の損失要因に対応できていない

■ポスト2010年目標の基本的方向性

- ✓ 意欲的・現実的・計測可能・短期目標(～2020年)と長期目標(～2050年)の設定・わかりやすく・行動志向的 とする。(COP9決議)
- ✓ 多くの主体による条約の実施促進・人類の福利や経済的側面、自然との共生といった視点の盛り込み。(日本提案)

■これまでの検討

- 2009年3月 ・関係省庁連絡会議
- 5月～7月 ・有識者ヒアリング
- 8月～ ・NGO/研究者との意見交換会(月1回程度)
- 10月 ・関係省庁連絡会議(10月13日)にて「日本提案(素案)」を取りまとめ
・神戸国際対話

■今後のスケジュール

- 2009年11月 ・意見募集(パブコメ)の実施(10/30～11/27)
- 12月 ・ポスト2010年目標アジア地域ワークショップ
・日本提案の提出

日本提案の
内容検討

* 国際会議・シンポジウム等の場において、その段階での検討案を示し、幅広い意見交換を行いながらとりまとめ作業を進める。

2010年1月 英国主催ポスト2010年目標国際ワークショップ
2月 トロンハイム会合(ノルウェー)

2010年5月 科学技術補助機関会合(SBSTTA)

2010年10月 COP10

生物多様性条約 ポスト2010年目標

■ 日本提案(素案)の要点

■ 構造

● 中長期目標(2050年)

● 短期目標(2020年)

◆ 9つの個別目標

(例)種の保全の拡充・生態系保全面積の拡大

■ 32の達成手法

(例)多様な主体と連携協力した保護区の面積の拡大

▼ 具体的施策・手法

(例)管理システムの普及・保護区の指定

▼ 数値指標

(例)保護区的面積

■ ポイント

- わかりやすい構造
- 自然との共生の視点
- 多くの主体の行動に具体的につながるもの
- 我が国の先進的な取組を目標達成の具体的手法として提示

ポスト2010年目標日本提案（案）の構造

■ 中長期・短期目標

■ 中長期目標（2050年）

- 人と自然の共生の実現
- 生物多様性の損失を止め、現状以上に豊かなものへ
- 生態系サービスの恩恵の拡大

■ 短期目標（2020年）

中長期目標を達成するため、

- ・生物多様性の状態を地球規模で分析・把握
- ・生態系サービスの理解を社会に浸透
- ・生物多様性保全活動の拡大
- ・持続可能な利用の普及
- ・悪影響の減少手法の構築
- ・生物多様性の主流化
- ・多様な主体の新たな活動の実践

■ 現在

2010

2020

2030

2040

2050